

## 2018 年度 JROSG 海外出張支援報告書

新潟大学大学院 腫瘍放射線医学分野 中野智成

JROSG 海外出張支援のもと、第 60 回米国放射線腫瘍学会 (ASTRO) にて脳転移全脳照射後の早期認知機能の危険因子についてまとめた結果を発表させていただきました。この度のご支援に深く謝意を申し上げます。

学 会 名 : 第 60 回米国放射線腫瘍学会 (ASTRO)

開催場所 : サンアントニオ・アメリカ合衆国

開催期間 : 2018 年 10 月 21 日～10 月 24 日

発表形式 : 電子ポスター

演題名 : Risk factors for early cognitive deterioration after whole-brain radiotherapy for brain metastasis

発表者 : Toshimichi Nakano, Hirotake Saito, Kensuke Tanaka, Miki Shioi, Tomoya Oshikane, Katsuya Maruyama, Atsushi Ohta, Motoki Kaidu, Eisuke Abe, Hidefumi Aoyama

発表内容 :

【目的】脳転移全脳照射後の早期認知機能低下と関連する因子を明らかにする。

【方法】脳転移全脳照射症例に対して照射前、4mo 後、8mo 後に認知機能検査として、ホプキンス言語学習テスト改訂版 (HVLTR)、トレイルメイキングテスト (TMT)、言語流畅検査 (COWA) を実施した。4mo 後まで実施できた患者を対象に、照射前 → 4mo 後の平均値について、年齢、治療前の予後指標、4mo 時点での頭蓋内状態、検査実施回数で 2 群に分けて比較・解析した。

【結果】対象患者は 41 人。高齢者、予後不良群、4mo 時点で頭蓋内非制御、検査実施回数 2 回 (4mo 実施後に脱落) の群で有意な低下を認める検査項目があったが、対になる症例群では低下を認めなかった。

【結論】全脳照射後の早期認知機能低下と年齢、予後指標、頭蓋内状態、検査実施回数において関連があることが示唆された。